

研究テーマ

「視聴覚教材や創作活動を活用し、苦手な学習に興味をもたせる学習方法について」

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象児童生徒 小学校 第2学年

○課題

- ・自分のしたいと思った活動を衝動的に行ってしまう。
- ・音読や文の読み取りや書き取りをすることに難しさがある。
- ・自己肯定感が低く、失敗することを恐れる。

○強み

- ・ものづくりや昆虫のことなど、強い興味をもっている学習活動について、集中して取り組むことができる。
- ・間違えた問題を再度解くと、正しく解くことができる。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
国語科「ビーバーの大工事」

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）

苦手な音読や書き取り、説明文の学習に対して、自ら進んで取り組むことができる。

指導仮説

タブレット端末や音読CDを使って音読練習をさせたり、蛍光ペンで示した部分をノートに視写させたり、創作活動を取り入れて場面の様子を表現させたりすることで、苦手な音読や書き取り、説明文の学習にも意欲的に取り組むことができるであろう。

児童生徒の実態

3

指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1次	・音読練習をする。 ・視覚教材を使って学習内容を把握する。	・適切な速さで音読することができる。 ・視覚を通して、学習内容に見通しをもつことができる。	・音読の聞き取り ・行動観察
2次	・本文を読んで、場面の様子を叙述に沿って、順序よく表現する。	・画用紙や紙粘土や木の枝など、身近にある物を使って、ビーバーの活動を表現することができる。	・行動観察 ・表現作品
3次	・本文の視写をする。 ・単元テストを行い、定着状況を把握する。	・ビーバーの活動している様子が書かれてある部分を視写することができる。 ・事柄の順序やまとまりを考えた文章を読み取ることができる。	・行動観察 ・ノート ・単元テスト

◆表2 実践前後の変容の評価

評価内容	評価方法
・実践前後の音読の速さとスムーズさ ・説明文の理解度	・ICレコーダー ・単元テスト

4

指導の実際①



学習の見通しをもたせるために、タブレット端末で「ビーバーのダム」の動画を鑑みながら歌を聴かせた。学習内容に見通しをもつことができ、ビーバーのダム作りに興味をもつことができた。

5

指導の実際②



本文「木のねもとには、たちまち木のかわや木くずがとびちり、みきのまわりが五十センチメートルいじょうもある水が、ドシンと地ひびきを立ててたおれます。近よってみますと、上あごの歯を木のみきに当ててささえにし、下あごのすどい歯で、ぐいぐいとかじっているのです。」を鑑み、ビーバーがどのように木をかじっているかをイメージしながら、場面の様子を画用紙と紙粘土を使って表現した。

6

指導の実際③



ビーバーのダムを作る順番を読み取り、「木→小枝→石→どろ」の順で実際に型を作った。手順を確認しながら、集中して取り組むことができた。

7

指導の実際④



イメージを表現した後、教科書に書かれてある「ダム作りに必要な物」の部分を蛍光ペンで引き（木…赤、小枝…緑、石…オレンジ、どろ…青）、どこに書かれているかを確認しながらノートに複写をした。

8

学習過程の評価

次	学習活動	児童生徒の状況	達成状況
1	CDを使った音読練習及び視覚教材を使った学習内容の把握。 タブレット端末で「ビーバーのダム」の動画を観て、学習に興味をもつ。	・音読CDを活用した音読練習では、読む速さに気をつけながら取り組んだ。漢字の読みについては、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・学習内容と関係のある動画を観ることで、学習内容に見通しをもつとともに、興味をもつことができた。	○
2	本文を読んで、ビーバーがどのように木をかじっているかをイメージしながら、場面の様子を色画用紙と紙粘土を使って表現する。	・創作活動を取り入れることで、自分から進んで本文の読み取りを行うようになった。ビーバーの動きを確認するため、教科書を意欲的に読み、場面の様子を表現することができた。	◎
3	ビーバーの活動している様子が書かれている部分を複写することができる。 単元テスト	・教科書の「ダム作りに必要な物」の部分を蛍光ペンで引くことで、どこに書かれているかを確認しながらノートに複写することができた。 ・単元テストは90%正解であった。1学期の説明文の定着率より正答率が上昇した。	◎

9

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> ・音読の際、漢字が分からなかったり読んでいるところが分からなくなったりすると、読むのを止めてしまう。 ・文字を書くことについては、字体が崩れてしまうことでやり直しをすることを嫌い、「できんもん。」と言って取り組もうとしないことがある。 ・説明文の問題では、どの部分を読み取ればよいか分からなくなり、学習意欲が続かないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての学習単元でも、自ら音読しようとするできるようになった。読み方の分からない漢字は、教師に尋ねながら読むことができた。 ・書き取りについては、字体は崩れることはあるが、自ら取り組むことができるようになってきた。 ・文章のどの部分を読めばよいかを明確に示すことで、少しずつ文章を読み取ろうとする意欲が見られるようになった。

10

指導仮説の検証

●児童生徒は目標を達成したか。

- ・概ね達成できた。

●判断の理由・根拠

- ・苦手な説明文の学習に対して、音読や書き取りをしながら取り組むことができたことや、定着率が1学期より上昇したことで自己肯定感を育むことができたと考えられる。

●指導の工夫は有効であったか

- ・有効的であったと考える。

●判断の理由・根拠

- ・視覚教材を使った後の読み取り学習で、内容が分かりやすくと話していた。
- ・創作活動を取り入れることで、興味をもって場面の様子を読み取っていた。

11

指導の改善案

成果（よかった点）	課題（改善が必要な点）
<ul style="list-style-type: none"> ・音読CDや動画を最初に見せたり、重要な部分に蛍光ペンで線を引かせたりすることは、学習の見通しをもたせたり、内容を確認させたりすることに有効であった。 ・興味のある内容や創作活動を取り入れることで、苦手な音読や書き取り、説明文の読み取りにも意欲をもって主体的に取り組もうとする姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を読み取らせ、色画用紙と紙粘土を使って表現させたが、学習時間の確保が必要であった。また、どこまで作ればよいかなど、最初にゴールを明確に示しておく必要があった。

成果・課題を踏まえた改善案

- ・今回有効だった「動画」「音読CD」を使い、更に読み取り学習に意欲をもたせるとともに、学習内容を精選し、児童の興味のある活動を短時間取り入れた指導を行う。

12